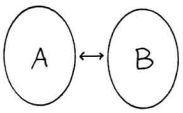
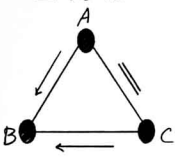
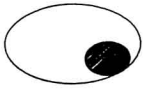
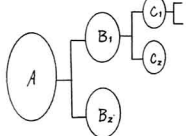
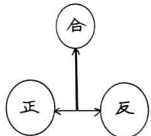
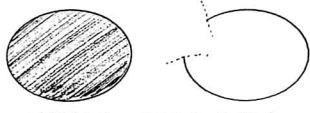
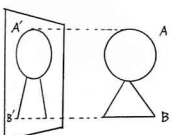
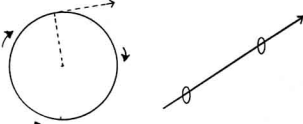
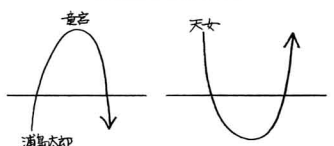
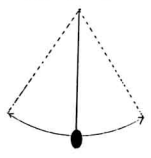
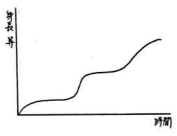
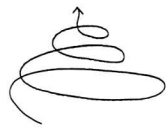
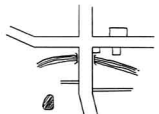

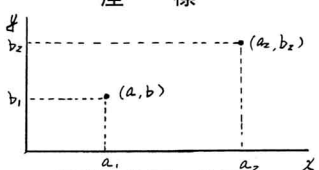
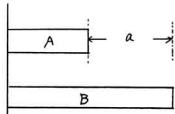


考え方の枠組みの例

●考える枠組み

ものを考えるための自分なりの枠組みを持っていると、発想が豊かになり、新たな考えを生みだしたり、表現がしやすくなります。例えば、弁証法的な考え方を知ることにより、対立をもとにしてそれらを高めた新しい統合をはかることも可能ですし、難しい概念の構造を分かりやすく説明しやすくなります。

ここにあげたものは、本冊子の「集めることと分けること」(P.34~45)で述べられている考え方の枠組みの例です。この他にも、自分なりの考え方を工夫できます。

枠組みの例	<p>対比・対立</p>  <p>ヨーロッパと日本 能動と受動 等</p>	<p>三角形</p>  <p>人間関係 等</p>	<p>包含関係</p>  <p>包むもの・包まれるもの 家族関係・人間関係</p>	
	<p>場合分け</p>  <p>系統樹</p>	<p>三段論法</p> <p>「植物は生物である」(大前提) 「草は植物である」(小前提) 「故に草は生物である」(結論)</p> <p>大前提・小前提・結論</p>	<p>弁証法</p>  <p>正・反・合</p>	
図示による考え方の例	<p>閉じられたもの・開かれたもの</p>  <p>封鎖社会・開かれた社会 閉じられた物語・開かれた物語 等</p>	<p>実像と鏡像</p>  <p>鏡に写すこと</p>	<p>循環(繰り返し)と直進</p>  <p>四季の移り変わり 等</p>	
	<p>浦島型と羽衣型</p>  <p>此岸・彼岸・此岸 彼岸・此岸・彼岸</p>	<p>振り子</p>  <p>心理の動き</p>	<p>成長曲線</p>  <p>プラトー</p>	<p>螺旋</p>  <p>回転と上昇</p>
	<p>空間・距離</p>  <p>地図・都市空間 人と人との間合い</p>	<p>時間</p>  <p>過去/現在/未来 歴史観 等</p>	<p>座標</p>  <p>場所・位置の決定</p>	<p>差</p>  <p>温度差・年令差</p>